

## 〔編集後記〕

「社会科学ジャーナル」第45号をお届けします。

本号では、テマリオ・リベラ客員教授によるフィリピンの中間階級が果たしてきた政治的役割についての論文、このたび本学で博士号を取得した松原幸恵氏によるブラクトンにおける王権と教権についての論文を収録いたしました。

さらに企業の社会に与える影響について、三つの興味深い論文を集めることが出来ました。まず企業によって始められた環境会計の地方自治体への応用について書かれた宮崎修行準教授の論文、英国における日本企業による多国籍企業の技術革新の効果について書かれた北川文美氏の論文、そしてモンコンノラキット氏によるブランドロイヤリティのモデル化の論文です。これらを読み比べていただくことにより、グローバリゼーションの進行する中、企業が社会に与える役割について、読者の皆さんの知識を更に深めることが出来れば、編集委員一同としてこれに勝る幸いはありません。

今後とも、「社会科学ジャーナル」を更に一層読み応えのある学術誌にしていきたい、とわれわれ編集委員は努力していく所存です。

(近藤正規 記)